

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 哲学専攻 修士課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

哲学専攻では、専攻がカリキュラムとして提供する各種の授業科目を履修すること、および修士論文作成についての研究指導を受け、適切な研究方法に基づいて修士論文を作成することによって、次のような能力・資質を身につけることを期待しています。

1. 哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学の三領域のいずれかを中心とした専門的な研究と、三領域にとらわれない広く学際的な学修・研究とを通じて、専門的な哲学分野に関する広く深い学識と、様々な問題に対応できる柔軟で論理的な思考力、ならびに世界の事象を的確に把握する力を身につけること。
2. 各授業における教員や学生との議論、ならびに修士論文に関する研究指導における対話を通じて、自らの学識に基づき、自己の考えを他者の理解可能な形で論理的に表現する力を高めるとともに、他者の発言の意図を的確に理解する力を養うことで、他者と知的に対話する力を身につけること。
3. 自らの身につけた学識や諸能力ならびに世界についての把握によって、社会に主体的かつ積極的に関わる力を獲得し、専門的な研究者、教員、美術関係の専門家として、またその他の職業・活動において、自らの関わる社会にとって真に有意義な貢献のできる資質を身につけること。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 哲学専攻 修士課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

哲学専攻では、哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学の三つの領域に関して専門的な知識を獲得することを主たる目的としたコースワーク科目（各種特論）と、修士論文を作成する上で必要な指導を受けることを目的としたリサーチワーク科目（論文演習）とを開講しています。

これらの授業においては、ひとりひとりの学生に対してきめ細かい指導を行うことにより、学生が高度な専門性と思考力を獲得し、質の高い修士論文を作成できるよう配慮しています。またみずからの意見を論理的かつ適切に表現し、他者の意見を精確に理解し対話する力を養うことを重視しています。学生は、コースワーク科目ならびにリサーチワーク科目の授業を、各年次を通じてバランスよく履修することが求められます。

また、研究に必要な場合には、他専攻の科目や哲学専攻の承認した学部開講科目、委託聴講制度の協定を結んだ他大学の大学院科目を、一定の範囲内で履修することができます。また所定の教職専修免許状取得のため修了要件外の学部開講科目を履修することも可能であり、新規に教員免許を取得する際には長期履修制度を利用できる場合もあります。

哲学専攻では、指導教員と副指導教員とによる複数指導体制をとっており、学業全般に関して複数の指導教員に相談することができるほか、指導教員以外の教員の授業も自由に履修し、指導を受けることができます。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 哲学専攻 修士課程の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

哲学専攻では、カリキュラム・ポリシーに基づく各種授業科目を履修し、ディプロマ・ポリシーに示されている学識や諸能力を身につけ、研究を遂行して修士論文を作成する上で必要とされる基礎的な知識や学力があることを入学者に求め、それを確認するため、受け入れにあたって、以下のことを実施します。

1. 専門科目の試験を実施し、哲学についての学士課程修了程度の専門的知識が身につけていること、また授業の履修や論文作成に必要な論理的な思考力や適切な文章力・表現力が身につけていることを確認します。
2. 外国語試験（英語、ドイツ語、フランス語のうち、いずれか一つを選択）を実施し、修士課程で研究を進めていくさいに必要とされる文法的な知識や読解力などの語学力が身につけていることを確認します。
3. 口述試験を実施し、入学前の学修状況や社会での活動、ならびに修士論文作成に関する研究計画を確認します。そのさい、主体的に研究するための動機や目的が明確であること、学問に対して真摯に向き合い、ものごとを根本から問う姿勢があること、他者との議論に必要な表現力・理解力など対話する力があることを確認します。
4. 社会人特別選抜制度や長期履修制度を利用し、社会や家庭等における活動経験から導き出された哲学的な課題の探求を志す社会人も受け入れています。